

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える
「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船レター～
2015.2.19 vol.50

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

皆様、いつもお読みいただきまして、
誠にありがとうございます。

昨日は、関東の平野部でも雪の予報となった
寒い一日となりましたが、お変わりございませんか？

さて、先週の12日～14日は、沖縄県の
浦添市教育委員会生涯学習振興課さま主催の
「社会教育学級大会」で公演をさせていただきました。

沖縄は最高気温20度、最低気温13度と
とっても暖かく過ごしやすい気候。
皆様との交流に心まで温まって帰って参りました。

私たちをいつも励まし支え続けてくださっている
沖縄の地で出会い、東日本大震災で被災した子ども達へ
紙芝居を贈るプロジェクトを立ち上げてくださった
藤原奈央子氏を本日からご紹介させていただきます。

それでは、第1章 藤原奈央子氏との出会いを
最後までお読みいただけましたら嬉しいです。

☆第17話「今を生きるスターリマンの物語」
～阪神淡路大震災を乗り越えて東北へつなぐ夢～
スターリマン紙芝居プロジェクト発起人 藤原 奈央子氏

第1章 ～藤原奈央子氏との出会い～

私たちが、藤原奈央子さんと初めて出会ったのは、
2011年3月13日。

スターリマンのホームページの制作をお手伝いくださった
ユナイテッド・ビジョンの中村さんからのご紹介で
以下のようなメールをいただいたことがきっかけでした。

はじめまして。

私は、神戸出身で、現在は沖縄の糸満市というところで、道の駅併設の物産センターで、商品開発やイベント企画を担当しております。

今、特産のにんじんを使った商品開発をしているとNさんにお話したところ、はせがわさんの「にんじんの家」を教えてくださいました。ものすごく衝撃でした。

糸満市には、沖縄戦終焉の地ということで、戦跡が多いのですが、ほとんど地元の人姿はなく、県外からこられる方も、だんだん減っています。

その中でがんばっておられる語り部さん、資料館やNPOの方とお会いするうち、何か、「祈りをつなぐ」モノは作れないものかと考えるようになりました。

市として、「ひかりとみどりといのりのまち」を掲げていますがなかなか、それを感じてもらえる機会がありません。

自分の「商品開発」という仕事と、何かつなげて、「いのりを伝える」商品ができたら、と、考えてきましたが、なかなか妙案がなく、そのままになっておりました。

そこで出逢ったのがはせがわさんの絵でした。本当に、イメージがぱっと広がりました。

まだ、漠然としていて、申し訳ないのですが何かのカタチでお力添えいただけたら、とてもとても、うれしいです。

奈央子さんの真っすぐな想いに感動した私たちは、すぐにお返事をしました。

そして、ちょうど3月12日から一週間ほど沖縄の北大東島の中学校の卒業式に参加させていただいたり、離島での活動の予定があったので、3月13日に那覇空港でお会いする約束をしました。

3月11日。いよいよ出発の日が明日とせまり、ワクワクした気持ちで卒業生の皆さんへのお祝いのプレゼントを用意している最中に、東日本大震災が起こりました。

埼玉の自宅でも震度5を記録し、家の中はめちゃくちゃ状態。
何とか出かける準備を整えたものの、
翌日、羽田空港までの電車が動かずフライトに間に合わず。

北大東中学校の卒業式には、残念ながら参加出来なくなりましたが、
他の活動のお約束を果たすために、翌日13日のフライトで飛び立ちました。

那覇空港に到着し、無事に奈央子さんとお会いすることが出来ました。
簡単な挨拶を済ませると、自然と話題は2日前の震災のことに…。
起こった現実をまだ受け入れられず、言葉に詰まっていると
奈央子さんから、こんな一言をいただきました。

「スターリマンの作品には、紙芝居はないんですか？」

「紙芝居…ですか？」

活動の中で使っていたものはありますが、
きちんと製本されているものはなかったため、
「絵本ではダメなんですか？」と尋ねました。

すると奈央さんは、ご自身が阪神淡路大震災で
火災の一番酷かった神戸市の長田区出身で、火事で家が全焼してしまったこと。
避難場所の体育館で、ボランティアの方々が紙芝居を読んでもくれたことが
心の支えになったことを話してくださいました。

「絵本だと一人で読めてしまうけれど、紙芝居だと読む人と聴く人がいて、
自然と紙芝居の周りに温かいコミュニティが生まれます。
だから、紙芝居でないとダメなんです。」と丁寧に理由を話すと、

奈央さんは

「今回の震災で被災した子ども達と一緒に紙芝居を贈りませんか？」と、
ご提案をしてくださったのです。

気が気でない状態で家を飛び出し、
被災された方々のために何か出来ることはないかと
想いをめぐらせていた私たちにとって、
奈央さんの言葉はひとすじの希望の光のように感じました。

「是非、一緒にプロジェクトを進めさせてください！」

お互いの気持ちを確認め合い、私たちは沖縄での活動へ向かいました。
その間、奈央子さんにはプロジェクトに協力していただける
糸満の印刷会社さんを探していただきました。

沖縄滞在の最終日。

奈央子さんから、東洋企画印刷の大城社長ご夫妻と
デザイナーの中島さんをご紹介いただき、趣旨を伝えると、

「沖縄から東北の子ども達に希望の風を送りましょう」と
紙芝居制作のご支援に快く承諾してくださいました。

こうして、「スターリマン紙芝居プロジェクト」が動き出しました。

埼玉に戻った私たちは、すぐに紙芝居の制作に取りかかりました。

一から作品を創作している時間はなかったことと、
子ども達だけでなく、幅広い年齢の方に長く読んでいただきたいと願い、
元々あった作品を紙芝居風にアレンジして、
何度も何度も原稿を書き直しました。

そして、2011年7月7日。七夕の星に復興への願いを込めた
スターリマン紙芝居『夢をかなえる9つの風船の贈りもの』が完成。

紙芝居プロジェクトが本格的に始動するにあたり、
奈央子さんが寄せてくださったメッセージを、
ここでご紹介させていただきます。

～スターリマン紙芝居プロジェクトによせて～

未曾有の災害、被災したこどもたちへの長期的支援を考えたい。
日本中に、こどもたちの笑顔を広げたい。つなげたい。
そんな思いから、この紙芝居は生まれました。

沖縄という遠い場所からではありませんが、何かできることはないかと、
チャリティイベントの開催や募金活動の実施、
そして被災地にも行かせて頂きました。

被災地の皆様は、計り知れない悲しみの中で、
少しでも前を向いて進もうと、必死に生きておられました。

忘れてはいけないのは、「それぞれが一生懸命、今を生きること」
そして、「今があることのありがたさをしっかり感じて生きること」だと、
改めて気づかせて頂きました。

私が14歳のとき、阪神淡路大震災で自宅が全焼。
目の前のあまりにも悲惨な光景に、
今自分が見ている世界が嘘だったらいいのに、と毎日思っていました。
それから16年。スターリマンの物語を聴いたとき、
このステキなストーリーが現実だったらと思いました。

夢のような物語をともに読むことが、
少しでも被災された皆様の希望となり
また、被災地を応援したい皆様の想いをつなぐ
紙芝居となるように祈っています。

最後に、このプロジェクト発信にあたり快くご協力をくださったはせがわファミリーの皆様、編集工房 東洋企画の皆様にご心より御礼を申し上げます。

私たちは、7月2日から沖縄県内の北部・中部・南部を訪れ、プロジェクトの応援を呼びかける活動を行いました。

5日には、奈央子さんをご縁があった糸満小学校さんを訪問し、6年生の皆さんに紙芝居ライブをお聴きいただいたり、被災した方々に宛てたお手紙を書きいただきました。

その後、7月31日から8月5日まで、岩手・宮城・福島を訪れ、保育園や幼稚園、広場や仮設住宅等で紙芝居ライブを行いながら、沖縄の皆様からいただいたお気持ちが少しでも届くように、一冊一冊、大切に紙芝居をお渡ししていきました。

沖縄だけでなく、日本各地の色々な方から温かな応援をいただき、今日に至るまで活動を続けることができています。

この活動を通していただいた数々の素晴らしいご縁を思い返すと、奈央子さんとの出会いに、改めて感謝の気持ちが溢れるばかりです。

そして、今年2015年1月11日には、「KOBE夢・未来号・沖縄」というプロジェクトで神戸の6年生の子ども達に、紙芝居の生まれた糸満市のホテルで紙芝居ライブを観ていただく機会をいただきました。

紙芝居ライブの前に、先輩である奈央子さんからのメッセージを子ども達にお聴きいただきました。

みなさん、こんにちは。
私は14歳の時に阪神淡路大震災で被災し、20歳の時に沖縄へやってきました。

沖縄では、小さな民宿を営んだり、道の駅でおみやげを作って売ったり、イベントをしたり、という仕事をしていました。

去年、宮城県に引っ越し、今は「七ヶ浜」(しちがはま)という町で津波で被災したお母さんたちが、地元の魚を使って干物を作っている工場に働いています。

ちょうど東日本大震災が起きたころ、偶然ですが
はせがわファミリーのみなさんとお会いする約束をさせていただいていました。
被災地を思い、何かしたいなあ、何ができるだろうか、とお話しするうち、
自分が被災したときのことを思い出しました。

私の家は焼けてしまったので、中学校に避難していました。
同じように避難している小さな子どもたちに、紙芝居を読んでいた。
普段の暮らしができない中で、いろいろな物語を聞いている時間は
少し、今を忘れさせてくれる楽しい時間でした。

きっとそんな気持ちも、東日本大震災の被災地でも
少し時間がかかるかもしれないけれど必要になるに違いない。
そんな思いをはせがわファミリーのみなさんが汲みとってくださり
また、東洋企画印刷さんはじめ、たくさんの企業の方が応援してくださって
この紙芝居が生まれました。

そして、はせがわファミリーのみなさんによって
被災地はもちろん、全国を旅させてもらっていること、
とても嬉しく思います。
日々、忙しいスケジュールを調整して、
被災地を回っていただいていること、ほんとうに頭が下がる思いです。

沖縄には、「なんくるないさあ」という言葉があります。
「なんとかなるさ」という意味ですが、少し違います。

正しくは「やることはすべてやったから、
あとは運を天に任せよう」という意味です。

「あたりまえ」だと思っていた毎日、
突然崩れ去ってしまうことを震災で知りました。

それでも、日々を「今日が最後かもしれない」という思いで
周りの人を大事にしたり、あたたかい言葉をかけたり、
今に感謝したり、毎日やれることはすべてやりたいな、と思います。

「あたりまえ」だと思っていることに
「ありがとう」を言える自分でいよう。
それが、震災で学んだ一番のことです。

この紙芝居を見てくださったみなさんが、何かを感じ、
ほんの少し、誰かのためでも、自分のためでも、
何かやってみようかな、と思ってもらえたら嬉しいです。

阪神淡路大震災から20年。そして戦後70年という節目の年に、
東日本大震災の復興を祈る奈央子さんの想いが込められた紙芝居が
ふるさとの子ども達の元に届きました。

心に受けた傷は、一生癒えることはないかもしれません。
失ったものは、二度と元に戻ることはないかもしれません。

でも、未来を信じ、懸命に生きていれば、
必ず、絶望は希望へと変わっていくことを
紙芝居の活動で出会った方々から教えていただきました。

カタチは違えども、糸満から祈りをつなぐ紙芝居が
未来を担う子ども達にたくさんの夢や笑顔を届けてくださっています。

紙芝居を観た子ども達が、将来、大人になった時、
心豊かで平和な世の中でありますように、
これからもスターリィマンの風船を届け続けていきたいと思えます。

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第17話の第2章は、2月28日(土)配信予定です！

藤原奈央子さんとの出会いは、いかがでしたでしょうか？

もうすぐ、震災から丸4年。
もしあの時、奈央子さんと出会わなかったら私たちは…
奈央子さんとの出会いをまとめるにあたり、
これまでの月日を振り返り、色々な想いが込み上げました。

奈央子さんや沖縄の皆様を始め、
この紙芝居の活動を通して、出会い、応援して下さった
多くの方々の想いに支えられ、継続して行く一步一步を
今日まで大切につないでこれました。

東北や沖縄、日本各地で紙芝居を観てくれた子ども達、
これから出会う未来のスターリィマン達のためにも
今後も続けていこうと、改めて心に刻みました。

さて、今回は第17話の第2章 藤原奈央子氏の家族の原風景です。

配信は、2月28日(土)になります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

沖縄から帰宅した翌日から、
3月1日に常陸一之宮鹿島神宮にて開催させていただく
復興祈念朗読演奏会のために
「東日本大震災からの復興再生を語り継ぐ鹿島神宮物語」の
お話を創作しています。

そんな中、14日にブラジル・サンパウロで行われたサンバカーニバルに、
青森県五所川原市から贈られた「立佞武多(たちねぶた)」が
出場したニュースを新聞やテレビで見ました。
<http://www.asahi.com/articles/photo/AS20150214002735.html>

このたちねぶたは、東日本大震災後に復興の祈りをこめて制作された
「復興祈願 鹿嶋大明神と地震鯨(じしんなまず)」で、
ブラジルの皆様からのご支援に対する感謝の気持ちが込められているそうです。
<http://tatinepta-project.jp/>

実は、昨年(2014年)の12月1日にスターリィマンの絵3作品を、
鹿島神宮の新祈祷殿にご奉納させていただいた際に
鹿島宮司様より、たちねぶたのお話を教えていただきました。

そして、ファッションデザイナーのコシノジュンコさんが、
カーニバルの衣装をデザインされたこともお聞きしました。

それから3日後の12月4日に、偶然にも
コシノジュンコさんとお会いする機会があり、
鹿島宮司様からお聞きしたことをお話させていただいた所、
「一緒にサンパウロに行きましょうよ」と
気さくな笑顔でお誘いくださいました。

こうして素敵なお縁がつながっている中で
鹿島の神様のお話を創作している今が
なんて幸せなんだろうと感謝いっぱいです。

3月1日の朗読演奏会にご参加いただけるとのご連絡を
10名位の方からいただいています。
遠方からわざわざ、本当に有り難く思っています。

先日も東北で震災の余震がありましたし、
少しでも地震が鎮まり、不安がなくなりますよう
皆様と共に鹿島の神様にご祈願させていただけたら幸いです。

尚、お席の準備がございますので、ご参加いただける方は、
必ず事前のご連絡をお願いいたします。

yosihm@dream-hasegawa.com (はせがわ芳見 宛)
※代表者様のお名前、ご連絡先、人数をお知らせください。

詳細 <http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、配信50回となる記念のメールマガジンを
最後までお読みいただき、誠にありがとうございました！

春が待ち遠しい季節、くれぐれもお元気で過ごしてください☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える
「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船レター～
2015.2.28 vol.51

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

今日で2月も終わり、明日から3月になりますね。
皆様、いかがお過ごしでしょうか？

梅や水仙の花が咲き始め、
太陽の日ざしは日に日に輝いて、
暖かい春がもうすぐやってくるのを感じます。
本当に待ち遠しいですね。

さて、本日は、「今を生きるスターリマンの物語」
第17章の第2話～藤原奈央子氏の家族の原風景～をお送りします。

最後までお読みいただけましたら嬉しいです。
それでは、どうぞよろしく申し上げます。

☆第17話「今を生きるスターリマンの物語」
～阪神淡路大震災を乗り越えて東北へつなぐ夢～

スターリマン紙芝居プロジェクト発起人 藤原 奈央子氏

第2章 ～藤原奈央子氏の家族の原風景～

Q1. ご家族のことを教えてください。

私は昭和55年9月13日、兵庫県神戸市に生まれました。
家族は両親と3つ違いの弟が一人います。

また、自宅のそばには、母の両親が住んでいました。

Q2. どんな子供でしたか？

変わった子でした。
地震になる前は、良い子にしているようにしていました。

幼稚園に入ってすぐに、友達の名前を全員覚えて
記憶力がいい子だねって、言われていました。

弟は内気で人見知り。
私は社交的なタイプで、目立ちたがり屋。

母方の祖父母がそばに住んでいたので、
よく預けられていたのですが、
3歳下の弟より、常に褒められてたいと思っていました。

Q3. 阪神淡路大震災の時の記憶を教えてください。

私が中学2年生の14歳の時に、震災にあいました。
不思議なもので、どんどん忘れて行くんですね。

今は断片的にしか覚えてなくて、
特によく覚えていることは、
前日の余震があった時のこと。

ああ、地震なんて珍しいねと、
家族と話していたのを思い出します。

地震の当日で憶えているのは、
地震があったのが、1月真冬の5時46分で、
真っ暗だったし、何が起きたのか、寝ぼけていたし。

じっとしてられないほどの
大きな地震にあったことがなかったから。

何が起こったんだろうと一生懸命考えていました…
寝ていた布団の上に、色々なものがいっぱい落ちて来て、
色んな声がしていました。

隣に弟が寝ていてテレビが落ちてきたり、
本も落ちてきたり、そんな中、妙に落ち着いていました。

ガラスが割れているから、動くなと父親が言って
ああそうなんだ。なんて受け止めて。

服を着て外に出ようとしても、タンスが倒れて埋もれているので、
たまたま先週クリーニングから戻ってきたワンピースを見つけて、
その下に黒のキュロットスカートをはいて。

下駄箱も倒れていたの、戸棚にしまって置いた革靴を履いて。
震災の日なのに、よそいきのおしゃれな格好で、家を出ました。

出てみると、家々があちこち倒れていて、
いっぱい家がないんだと驚きました。

おばあちゃんたちが1丁目が燃えているって、騒いでいて。
その時は、何でもいいから日常にしがみつきたくて、
学校はあるのかなとか、近所のお姉さんたちと言ったりして。

その内、先生がまわってきて、学校は先生休みなんですか？と聞くと
あるわけないでしょと言われて。

ラジオをつけたら、倒れた家が30軒とか、
亡くなった人なん人とか言っていて。

目の前に倒れていたのが、30軒ぐらいたったので、
ここだけなんだと思いました。
でも、あっちこっちに煙があがっていて、
何か変だなあと思っていました。

午後3時ぐらいに家を片付けに帰ろうとしたら、
祖父母が無事だったことが分かって、
良かった良かったと無事を喜びあいました。

あと、鮮明に憶えているのは、
父や祖父母が家から荷物を出す手配をしていて、
弟と二人で家の前に立っていたんですが、
対岸の火事で、ブロック塀の真ん中の家だけ、
ポーンと飛んだんです。

ガス管があちこち出ていたから、
そこに火の粉が飛んで、一瞬でしたね。
あの瞬間は忘れられないですね。

父たちが出した荷物を、自転車につけて
山の上にある祖父母の家に運んでいて、
一回行って、2回目に帰ってきたら、
もう家がない状態でした。

山を降りて来た時に、あ〜ないわと思ったのを
すごくよく覚えています。

ああ〜と言う感覚は全然なかったですね。
それが自分でも不思議です。

Q4.震災から時間が経って精神的に受けたショックはありましたか？

ありました。
それはあ〜失くしたんだということが、
わかった瞬間だったと思います。

2月5日に学校が始まって、
再会をみんなで喜びあって、亡くなった友達の話題になって、
そう言えば、あの時、文集がねなんて話した時に、
ああ、私の文集はなくなってしまった。
文集だけじゃない、あれもこれもないや。
何もないんだとそう思ったら、急に寂しくなって。

ものってすぐには買えるけど、文集やアルバムは買えないから。
私はないんだとわかった時、とっても寂しかったですね。

また、中学の時って、周りがみんな被災者だったけど、
高校は、普通の子もいるので、
小さい時の写真を持ってきてください。なんて時があって、
私は一枚もないやとか、折々に失くしたことを実感して、
かえってそう思うことで、救われてきた瞬間もありました。

震災の時から、私は日記をつけているという子がいて、
よかったね。私は机も筆箱も家もなくなったから、
と冗談で言ったら、その友だちが笑わなくて。

翌日、新しい筆箱に鉛筆を入れて、ノート一式と一緒に
「昨日はごめんねって」贈ってくれたんです。

小学校の時のアルバムも、
写真屋さんが私の分だけ作り直してくれたり、
文集も先生が刷り直してくれて、今も私、持っています。

でも、やっぱり戻らないのものもいっぱいあるし、
かけらかけらしか覚えていないんです。

震災で同級生が3人亡くなって。
一人は近所の子。家族みんなで家の下敷きになっちゃって。

その子の家にも行って、その時は掘り起こそうという気もまわらなくて。
その後、何で思わなかったんだろうとすごく思いました。

震災から3日後ぐらいに、同級生が亡くなったということで、
高校の体育館に行ったんです。父親がついてきてくれて。
その時の光景が忘れられないです。

色んな部屋に色んな方が亡くなられていて、
カレンダーの裏にマジックで、女性、男性と書いてあって、
名前がある人もない人もいて。

ようやく探したら、お父さんとお母さんがいて
来てくれたのって。

そして、触ってやってって言われて、
友達に触れたあの感触は、忘れられないです。
私の父親が、連れて行かなければよかったと思ったみたいで。

大切な人を失くした人に比べたら、
家を失くしたくらいって気持ち、私は少しありましたね。

亡くなった友達のお母さんが、毎年、家に呼んでくれて、
あなた達が元気で生きてくれていることが
嬉しいと思っているよって言ってきて。

そう言ってくれるお母さんの言葉の意味もわかるし。
残されちゃったと思うと、生きている方が辛いですよ。

避難所では、自衛隊のヘリコプターから
落ちてくる食料を拾って、戦争中のようなだと思いました。

100人分ぐらいのご飯を確保するのに、
先生たちは走り回って。

私たちは落ちてくる段ボールを手をつないで守って、
それも大人たちが取っちゃって。

しかも面白い事に、毎日家族が増えて行くんですよ。

いつ食糧がくるかわからないから、
我が家は4人、5人だと言って大人が持っていちゃって。

「先生、今日も私たちご飯ないよ」
「お腹空いたよ」なんてこともありました。

そんな中、人は見かけではわからないと思ったのは、
大きなバイクの乗ったお兄さんたちに
これ食べなと言われて、見た目ではないんだと感じました。

色々な人が沖縄とか全国から支援に来てくれて。
その時、不思議だなと思ったことがあったんです。

普通は、自分でお金を稼いで、その稼いだお金を使って
生活しているじゃないですか、

それが何も失くしたのに、人のお金でご飯を食べているんだあと
それって、誰かが助けてくれているわけで
ありがたいって、思っていました。

それをありがたいと思っている人は
いるんだろうかと子ども心に思いましたね。

Q5. その後の中越地震が起きた時は？

テレビをたまたま観ていて、
やはり、何か出来ないかなあと思ったんですよ。
何か反射的に行こうと思って。

その時、皆さんから阪神淡路大震災の時は、
何も出来なくてごめんなさい。とか、
募金に行ったんだよとか。
お互い様ですねっていう言葉をいっぱいもらって
よかったなあと思いました。

そうやってちょっとずつ、直接ではなくても
何かつながりあって、お互い様で
毎日が成り立っているんだあとと感じました。

同じことなんて一つもなく、比べようもなく、
みんな地震じゃなくても、大変な思いをされている人は
たくさんいるんだなあとか何かしら、
共通な想いは、共感できる想いは
すごくあるんじゃないかなあと思っています。

Q6. 沖縄に行ったきっかけは？

神戸の避難所に沖縄から来ていたボランティアさんがいて、
落ち着いたら、沖縄に遊びにお出でよと言っていたら、
高校に行く頃には、お家も出来ているし、行くねと。

その後、高校に合格したので、一人で行こうとしたら
家族みんな付いていくということになって、
家族で沖縄に旅行に行ったんです。

それをきっかけに、沖縄の太鼓のサークルに入って、
神戸の太鼓のサークルと沖縄の太鼓のサークルが交流するようになって、
そんなご縁で知り合った人が別荘を買うから、
沖縄に遊びにおいでと言われて行った時に、
その別荘で民宿でもしたらと言ってきて。

高校もそれなりにいい高校に入って、
大学も国公立の大学に入りましたが、
でも、頭が良いだけじゃダメなんじゃないかなあとか
何か違うと思っていた時だったので、
親にも自分の好きなようにさせてもらい、沖縄に来ました。

ちょうど20歳の時でした。

最近やっと、親はずっと私の好きなことを
させてくれていたんだと親の気持ちがわかってきました。

Q7. スターリィマン紙芝居をご提案くださった時のことを教えてください。

震災2日後のあの日、私の中でも感情がまとまってなくて。
あの少し前に、神戸に行って、まさに帰りの飛行機の中で
東日本大震災を知って、何とも言えない思いだったんですよ。

すごく災害に敏感であるということは、どうしてもあって。
大変なことが起きたって。何とかしなきゃって。

今は沖縄に基盤があるし、何が出来るんだらうって。

そんな時に、はせがわさんたちと初めてお会いして、
絵に書いたような、天使と神様がいるみたいな
そういうイメージだったんです。

はあ～って、こういう皆さんがいらっしゃるんだなあってくらい。

はせがわさんたちから、何かしたいですねと
おっしゃってくださった時に、
私が避難所でボランティアのお兄さん・お姉さんに
紙芝居を読んでもらったことを思い出したんです。

自然に体が動くことってあるじゃないですか。
どうして、選ばれて生きているんだろう？
その問いの答えは、「役に立って生きたい」というだけです。

Q9.2年前に沖縄から東北に来たのは、どうしてですか？

それもタイミングですね。

自分が生まれて住んでいた街である
神戸の長田区が姿が変わって、
街が変わると人も変わってします。

それはとても寂しいことだなあと。

私はもう、神戸の家の周りを思い出せないんです。
どんな路地だったかなあとか
どんな風景だったのかなあって
あまり思い出せないんですね。

それって思い出した時に、
その時、見つめて行く
心の拠りどころが故郷であって
大事な人と暮らせる街であってほしい。

そこに何かひとつでもってという想いで、
子どもたちとも地域で誇れる何かをしようとか
道の駅で、地元の名物を作ろうとか
私は沖縄でやって来たわけだから。

それをどうにか自分の仕事にしたいなあと思ったんです。

それをやっている人が、たまたま東北にいて、
復興もできる、ビジネスもできるということで
やっている今に社長に出会って、ああ〜これだと思って。

社長に学んで、自分の今後の生業をつくろうと、
修行だと思ってお願いしました。

東北のために100%ではないかも知れませんが、
どんな風にまちが姿を変えても
まちを元気にする術を、本当に仕事として
問題解決していくことに興味がありました。
そのスキルがほしかったんです。

この2年間は、特に1年間は
新しいことに挑戦したいということで、やって来ました。

Q10.東北を外から見ているのと、実際に内側に入って感じたことは？

それは良い意味でも、悪い意味でもある。
本当のことって、目の前にしかない。大変なことですよ。
大変か大変でないかは、人が決めることだなあと思ったりもします。

しかし、そこで何が出来るかというと
地産でしか出来ないと思います。

東北で2万人以上の方が亡くなって、色んな世界の国から、
食べられないで困っている人がいる国からも支援を受けたのに、
じゃ、元に戻りました。それでいいの？って。

あの時の学びをしっかりと活かして、
皆さんの課題に対して、少しでも恩返ししますと。

そういうことを言わないといけないんじゃないかなあって。
そのためにも今、色々やっているんですよ。

本当に東北からありがとうを伝えるための商品をつくる。
ノウハウとか、色々なものを商品化するんですけど。

ありがとうと言われる側から、言う側になった時、
初めて復興じゃないかなあと、会社では言っていて、
まさにそうなんだなあって、思うことがたくさんあります。

Q11.今後の夢や目標はありますか？

まさに、今後を描こうとしています。

バタバタしていると、今に生きがちなので、
未来を見据えた今を生きているかということ
ちゃんと意識して、何を軸にするかを
今年は考えたいなぁと思っています。

今のための昔だったんだと
今のために、今を挑戦することもあります、
未来のために、今をどうするかを考えたいです。

Q12.藤原奈央子さんにとって、スターリイマンは誰ですか？

私の場合はたくさんいます。

そういう存在を信じていいんだよって
教えてくれたのが、「スターリイマン」なんだと思います。

サンタクロースとかと一緒にだと思っんですよ。
大人になったら、そんなことないよって思うかも知れませんが。

スターリイマンのお話を見せてもらったじゃないですか。
その時、ああ 信じてもいいんだなって思って、
周りにはスターリイマンのような人がいっぱいいるんだなあって。

この前も沖縄に帰りたいなぁと思ったんです。

沖縄に帰ってどうするんだと思ったら、
大丈夫だよ。いつでも帰っていいんだよ。

何をしてもいいんだよって、言ってくれる人たちがいっぱいいる
みんなそうなんだ。スターリイマンなんだって。

私自身が困ったことなくて、
本当に困った時に大丈夫だよって、
色んな方たちに助けていただいて、困らないんです。

本当に神戸の地震の時もそうでした。

私が神戸で経験したからこそ、
東北で活かすことが出来たすごく嬉しいと思います。

今、出会った東北の子供達が
何十年後に、誰かのために生きる
素晴らしいスターリイマンになってほしいと。
大人になるんじゃないかなあと考えています。

「今を生きるスターリイマンの物語」
☆第17話の第3章は、3月9日(月)配信予定です！

藤原奈央子さんの家族の原風景は、
いかかでしたでしょうか？

いつも誰かのために行動し、
一生懸命な奈央子さん。

震災という経験を真っすぐに心で受け止め、
その中で痛みや感謝の気持ちを感じたからこそ、
自分のできることで、周りの人に少しでもご恩返しをしよう！
そんな生き方をしてきたのだと分かりました。

そして、人は生きる中で、どんなことを経験し、
何をそこから気がつき学んでいくかで、
自分らしく輝く人生を見出して行けるんだと思いました。

今後の奈央子さんの活躍を心から楽しみに
ずっとずっと応援しています！

さて、今回は、第17話の第3章として、
「藤原奈央子氏のスターリイマンに宛てた感謝の風船レター」
をお送りさせていただきます。

配信は、3月9日(月)になります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

明日はいよいよ、鹿島神宮での復興祈念朗読演奏会です。

先ほど、鹿島宮司様にお電話をさせていただきましたら、楽しみにしていますとの嬉しいお言葉をいただきました。

遠方からご参加いただきます皆様、
くれぐれもお気をつけてお越しくださいませ。

さて、明日の朗読演奏会で共演させていただく
篠笛のこちゃんとのコラボレーション公演を
4月に都内で開催することに決まりました！

こちゃんが奏でる日本の唱歌や童謡にのせて、
ふるさと日本の心の原風景の中を旅する
スターリイマンの作品を皆様にお届けいたします。

詳細は、ホームページのイベントページをご覧ください☆
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

そして、明後日2日は、「スターリイマンカレンダー2015」の
売上の一部を「たまきはる福島基金」様にご寄附させていただくため、
理事長の玄侑宗久氏が講演会をなさる福島の会場に行って参ります。
<http://www.genyu-sokyu.com/koenkai/index.html>

この件につきましては、改めてご報告させていただきたいと思います。
カレンダーをご支援くださった皆様、本当にありがとうございます！

それでは、今日もお読みいただきまして、
どうもありがとうございました。

明日から新しいカレンダーのページとなりますね。

年度末が近づき、ますます慌ただしくなると思いますが、
ふっと深呼吸をして、心落ち着かせながら、
素敵な毎日をお過ごしください☆

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.3.9 vol.52

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

3月になりました。

皆様、いかがお過ごしでしょうか？

さて、今日は3月9日。

語呂合わせで“サンキュー”の日ですね。

いつもお世話になっている大切な人に

「ありがとう」の感謝の気持ちをお伝えする。

そんな素敵な日になっていただけたら幸せです。

ちなみに、私の“サンキュー”の日は、

宮城県気仙沼市の本吉公民館さんからご依頼をいただき、

「寿大学」というご高齢者の大先輩方向けの年間講座の閉講式にて、
お祝いの公演をさせていただくことになりました。

これまで気仙沼市には、2011年の8月から

紙芝居プロジェクトの活動で度々お伺いさせていただいて、

保育園、幼稚園、小学校、仮設住宅、老人介護施設、地域交流などなど
本当にたくさんの方々のご縁をいただきました。

そして、毎回、震災から少しずつ復興する皆様の姿に

温かく迎えてくださる皆様の真心に、

いつも元気や勇気、笑顔をいただいて参りました。

2日後の11日に東日本大震災から丸4年となる今日は、

このような素晴らしいご縁をいただくきっかけとなった

スターリマン紙芝居プロジェクトの発起人である

藤原奈央子氏の第3話

「スターリマンに宛てた感謝の風船レター」をお送りします。

それでは、最後までお読みいただけましたら嬉しいです。

どうぞよろしく願いいたします。

☆第17話 「今を生きるスターリイマンの物語」
～阪神淡路大震災を乗り越えて東北へつなぐ夢～

スターリイマン紙芝居プロジェクト発起人 藤原 奈央子氏

第3章 ～藤原奈央子氏のスターリイマンに宛てた感謝の風船レター～

ひよんなことから、友人が見つないでくれた
スターリイマンとの出会い。

紙芝居プロジェクトをきっかけに、
ますます、絆が深くなりましたこと、心から感謝です。

また、そんなスターリイマンの生みの親である
はせがわファミリーのみなさんには、
言葉に尽くせないほど、感謝しています。

「ありがとうを言う側から、言われる側へ」
尊敬している上司がよく言います。

これまで、たくさんのスターリイマンに出会いました。

まわりの方ひとりひとりがスターリイマンだ、と感じるようになって
何気ない毎日がほんとうに幸せに感じています。

最近では違った分野の仕事に挑戦する中で
出会った尊敬する方が
新たに現れたスターリイマンです。

挑戦するための勇気の風船を、
おいしいご飯で元気の風船を、
落ち込んだときには信頼の風船を…

おかげさまで、たくさんの風船をくださる方がいて
今日も、私らしく、いることができます。

いただいていた風船を、
今度は自分がしっかり届けられるよう
しなやかに、強くいたいものです。

藤原奈央子

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第18話の第1章は、3月19日(木)配信予定です！

藤原奈央子氏のスターリィマンに宛てた
感謝の風船レターはいかかでしたでしょうか？

周りの人を大切に、いつも感謝の気持ちを忘れずに、
真っすぐに生きていらっしゃる奈央子さんらしいお手紙で
読ませていただいて、心が温かくなりました。

私たちの方こそ、奈央子さんに感謝いっぱいです。

これからも奈央子さんが繋いでくださったご縁を大切に、
スターリィマンの作品でみんなの心と心を温かくつなぎ、
世界中が家族のような温かい絆をつないで
みんなの幸せを願いながら、
9つの風船を届けて参りたいと思います。

奈央子さんも、奈央子さんらしく、
これからもますます輝いてくださいね！

さて、今回は、第18話の第1章をお送りさせていただきます。

配信は、3月19日(木)になります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

一昨日の7日、娘は、神戸に行って参りました。

午前中は、KOBE三宮・ひと街創り協議会の
久利会長さんへインタビューをさせていただき、
午後からは、久利会長さんからご縁をいただいた
高野山真言宗 吉祥山西方院の坂井ご住職のお寺で、
春の彼岸法要の前に、檀家の皆様に活動のお話をさせていただきました。

坂井ご住職さんを始め、6名のご住職さんで構成されている
「垂水仏教会」さんは、東日本大震災後、神戸市内の駅前ですと
托鉢を行いながら復興義援金を集めていらっしゃる、
現在、私たちの活動にご寄付いただいております。

7日の日も、法要の中で、皆様からご寄付を募っていただき、皆様からの温かなお気持ちを娘に託してくださいました。帰ってきた娘から、その話を聞いて感謝の気持ちで涙が溢れました。

皆様からいただいた、たくさんの真心を力に、11日まで気仙沼で活動をさせていただきたいと思います。本当に本当にありがとうございます。

また、4月11日は、東京・神楽坂で、ふると日本をテーマにした朗読演奏会を開催いたします。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

その際に、今回の気仙沼での活動のご報告などを皆様にお伝えすることが出来ればと願っております。

篠笛奏者・ことちゃんの奏でる日本の唱歌や童謡にのせて、ふるさと日本の心の原風景の中を旅するスターリイマンの世界。

是非、このメールマガジンをご覧の皆様にもご参加いただき、私たちの誇りある日本、かけがえのない大切な故郷を思う時間を一緒に過ごしていただけたら嬉しいです。

そこで、サンキューの日のメールマガジンを最後までお読みいただいた皆様に、私から感謝の気持ちを込めてプレゼントがあります。

先日2日に、たまきはる福島基金さんにカレンダーの売上をご寄付させていただいた際に、玄侑理事長さんから「光の山」のご本にサインをいただいて参りました。

「光の山」<http://www.shinchosha.co.jp/book/445609/>

こちらのサイン本を、4月11日の朗読演奏会にお申込みいただいた方2名の方にプレゼントさせていただきます！

お申込みは、下記のサイトから受付中です☆
<http://kokucheese.com/event/index/270594/>

お申込みフォームのメッセージ欄に、「本プレゼント希望」とお書きください。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

そして、皆様の中には「会場が遠くて参加できない」という方もいらっしゃると思いますので、メールマガジンをお読みの1名の方にもプレゼントさせていただきたいと思います。

ご希望の方は、お名前、ご住所、メールマガジンのご感想をご明記の上、
yoshimi@dream-hasegawa.com へ3月16日（月）までにご連絡ください。
(本メールへのご返信でも可です)

それでは、皆様、今日もどうもありがとうございました！
大切な皆様のスターリィマンと心つながる
素敵な一日をお過ごしくださいませ。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>
